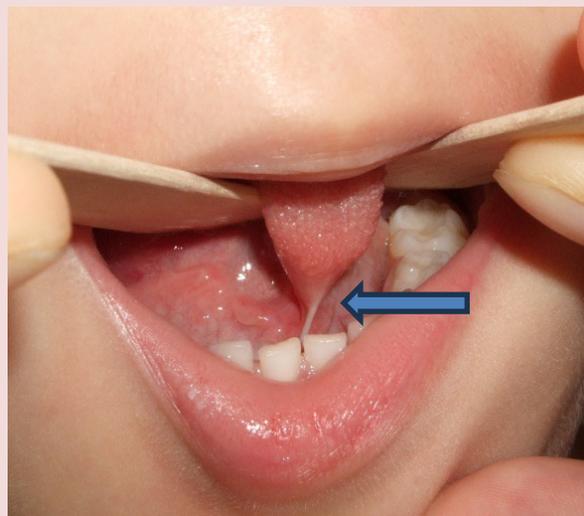


# 舌小帯短縮症

## 舌小帯短縮症とは？

舌小帯とは、下の裏側から歯茎につながるヒダのような構造物のことを言います。このヒダが生まれつき短いことがあり、これを舌小帯短縮症といいます。舌小帯が短いので、舌が動く範囲が限られてしまいます。舌を前の方に突き出すとき、舌の先端がハート型になります。



## どんな時に治療が必要？

舌の動きが悪く、哺乳がしにくい場合があります。またタ行、ラ行、サ行の発音がうまくできないといった問題があります。

そのような問題があるときは、治療を検討します。



舌を前に出すとハート型になる

## どんな治療か？

手術で舌小帯を切り、舌の動く範囲を広げます。お子様の場合、手術が怖かったり、動いたりしてしまうことがあります。その時は、全身麻酔で寝ていただいて手術を行うほうが安全です。

発音の問題がある場合、手術を行ってもすぐには舌の動きが矯正されません（発音の癖がついています）。手術後に発音のリハビリなどを行うこともあります。